

TPP交渉に関する説明会 資料

○ ブルネイ会合結果報告

1. 結果概要
2. 閣僚会合共同声明（仮訳、英文原文）
交渉参加国共同声明（仮訳、英文原文）
3. 閣僚会合後甘利大臣記者会見冒頭発言内容
4. 会合終了後鶴岡首席交渉官記者会見冒頭発言内容
5. ステークホルダー（利害関係者）会合概要

平成 25 年 9 月 10 日

内閣官房 TPP 政府対策本部

1. 第19回TPP交渉会合（ブルネイ）結果概要

第19回TPP交渉会合（ブルネイ） 結果報告

平成25年8月30日
内閣官房TPP政府対策本部

1. 概況

- 8月22日、23日にTPP閣僚会合を開催し、我が国から甘利大臣が出席。早急に具体的成果を出すよう首席交渉官、分野別交渉官に指示が出された。この指示に基づき、8月24日～30日まで交渉会合を開催し、精力的に議論を継続。
- 首席交渉官会合の他、市場アクセス、原産地規則、知的財産、政府調達、環境、競争、金融サービス、投資、一時的入国、非適合措置の作業部会が開催された。
- 市場アクセスについては、各国と順次、オファー交換、二国間協議を実施。ルール分野でも、投資、金融サービス、原産地規則で議論が進展。知的財産、競争、環境については、いくつかの論点で調整が必要であり、今後分野別中間会合、バイ協議で議論を継続。
- あわせて、ステークホルダー（利害関係者）会合も開催された。我が国首席交渉官を含め各国の交渉関係者が国内

外のステークホルダーと意見交換を行った。また、我が国のステークホルダーに対する説明会を3回実施した。

- 日本の記者に対しては、日本独自の会見を毎日行い、積極的な情報発信に努めた。

2. 今後のスケジュール

- 次回は9月18日から21日の日程で、米ワシントンD Cにおける首席交渉官会合の開催を調整することとなった。
- 各分野において中間会合を精力的に開催することで合意された。
- 各国は野心的でバランスのとれた21世紀型の協定を年内に作り上げるという目標を共有しており、そのために10月7、8日のAPEC首脳会議（バリ）が大きな節目となることが確認された。
同会議に向けて今後各分野の交渉を加速。

2. (1) 閣僚会合共同声明(仮訳)

共同プレス声明
T P P 閣僚会合
バンドルスリブガワン、ブルネイ ダルサラーム
2013 年 8 月 23 日

ブルネイ・ダルサラーム — 2013 年 8 月 22 日から 23 日まで、環太平洋パートナーシップ (T P P) 参加国の閣僚は、包括的で高い水準の域内貿易投資協定に向けた交渉が最終段階に入るのと同時に、残る主要論点に取り組む方法を検討するため、全体会合及び二国間会合を行った。

現在、論点の大半は終盤にあることに言及しつつ、12 か国 (オーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、日本、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、米国、ベトナム) は、最終的な交渉において、残るセンシティブで困難な論点や論点の順序付けについて取り得る着地点を含め、相互に受け入れ可能なパッケージを作り上げる方法を検討した。特に焦点となる分野としては、物品市場アクセス、サービス・投資、金融サービス、政府調達に関連する事項や知的財産、競争、環境についての協定テキストがある。また、我々は、労働、紛争解決、その他の分野に関して残る未解決の論点について議論を行った。

今回の T P P 閣僚会合は、交渉官に対して指示を出し、各国の首脳によって合意された 2013 年中の妥結に向けた交渉の推進を後押しするため、第 19 回 T P P 交渉会合の開催中に開かれた。我々は、域内の貿易投資を増やし、イノベーション

や経済成長、開発を促進し、各国内における雇用の創出・維持を支える、野心的でバランスの取れた 21 世紀型の協定を達成するという共通の目標に整合的な形で、成果を達成するための最善の方法について議論を行った。

我々は、例年のように T P P 首脳が集まると見込まれる、インドネシア・バリの A P E C 首脳会議に至るまでに、積極的な関与を維持することに合意した。12 か国が、この画期的な協定を妥結するために集中的に作業を進めていく上で、この会合は重要な節目となるであろう。

2. (2) 閣僚会合共同声明 (英文原文)

**JOINT PRESS STATEMENT
TPP MINISTERIAL MEETING
BANDAR SERI BEGAWAN, BRUNEI DARUSSALAM
AUGUST 23, 2013**

Brunei, Darussalam – The ministers of the Trans-Pacific Partnership (TPP) countries have met jointly and bilaterally on August 22 and 23, 2013 to consider how to address key outstanding issues as negotiations toward a comprehensive, high-standard regional trade and investment agreement enter the final stage.

Noting that the majority of issues are now at an advanced stage, the 12 countries – Australia, Brunei Darussalam, Canada, Chile, Japan, Malaysia, Mexico, New Zealand, Peru, Singapore, United States, and Vietnam -- have explored how to develop a mutually-acceptable package, including possible landing zones on remaining sensitive and challenging issues and sequencing of issues in the final talks. Particular areas of focus have included matters related to market access for goods, services/investment, financial services, and government procurement as well as the texts covering intellectual property, competition, and environmental issues. We also discussed the remaining outstanding issues on labor, dispute settlement, and other areas.

This meeting of TPP Ministers has taken place as the 19th round of TPP negotiations gets underway in order to offer guidance to negotiators and help drive the negotiations to conclusion on the 2013 timeframe instructed by our Leaders. We discussed how best to achieve an outcome consistent with our common goal of achieving an ambitious and balanced 21st-century agreement that will enhance trade and investment among us, promote innovation, economic growth and development, and support the creation and retention of jobs in our countries.

We have agreed to maintain our active engagement in the lead up to the APEC Leaders meeting in Bali, Indonesia, on the margins of which TPP Leaders are expected to meet as they have in past years. This meeting will be an important milestone as the 12 countries work intensively to conclude this landmark agreement.

2. (3) 第19回会合 共同プレス声明 (仮訳)

共同プレスリリース

第19回TPP交渉会合の間、 閣僚指示によって交渉官の作業が活性化

バンドル・スリ・ブガワン、ブルネイ — 環太平洋パートナーシップ (TPP) 参加国の交渉官は、最終的な交渉において残るセンシティブで困難な課題や課題の順序付けについて取り得る着地点について議論するために、ブルネイ・ダルサラームにおいて先週、会合を開いた閣僚の指示を受けて、各国間の立場の違いを狭めるために、今週、作業を活性化させた。TPP参加国(オーストラリア、ブルネイ・ダルサラーム、カナダ、チリ、日本、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、米国、ベトナム)の閣僚会合において、域内の貿易投資を増やし、イノベーションや競争、経済成長や開発を促進し、各国内での雇用の創出・維持を支える、野心的でバランスの取れた21世紀型の協定を達成するための指示が交渉官に与えられた。

交渉官は、閣僚の関与と交渉を積極的に先導するコミットメントに後押しされ、市場アクセス、原産地規則、投資、金融サービス、知的財産、競争、環境に関するテキストについて、今次会合で技術的な作業を進めた。また、交渉官は、物品、サービス、投資、金融サービ

ス、一時的入国、政府調達の市場に対して、相互にアクセスさせるパッケージを進展させた。全体及び二国間の議論は、多くの課題に対して創造的かつ現実的な解決策を作り出し、残る作業をさらに絞り込むことに成功した。また、今週、労働を担当する交渉官は、労働章において残る課題について作業を継続した。

交渉官は、今後の交渉の方向性を認識し、来週以降も、引き続き作業を進めるために再度中間会合を開催する予定である。全体会合の前に国内での協議に時間を要したために今回の会合において集まらなかったTBT、電子商取引、法的事項を含む、いくつかのその他の作業部会も、中間会合を行う予定である。例年のようにTPP首脳が集まると見込まれる、インドネシア・バリのAPEC首脳会議に至るまで、中間会合において作業を行い、交渉の更なる進展を図る予定である。この会合は、12か国が、今年、この画期的な協定を妥結するために集中的に作業を進めていく上で重要な節目となるであろう。

交渉官がTPP関係地域から集まった150名のステークホルダーと現場で交流するため、8月27日、TPP交渉は一時休止した。ステークホルダーは、交渉官に対し幅広い事項にわたってプレゼンテーションを行い、首席交渉官も、特定の関心事項について詳細に議論するため、ステークホルダーと非公式に接触した。

2. (4) 第19回会合 共同プレス声明 (英文原文)

**Ministerial Guidance Energizes Negotiators Work
During 19th Round of TPP Negotiations**

Bandar Seri Begawan, Brunei – Trans-Pacific Partnership (TPP) negotiators intensified their work this week to close gaps between them as directed by their Ministers, who met last week in Brunei Darussalam to discuss possible landing zones on remaining sensitive and challenging issues and sequencing of issues in the final talks. A Ministerial meeting of the TPP countries – Australia, Brunei Darussalam, Canada, Chile, Japan, Malaysia, Mexico, New Zealand, Peru, Singapore, United States and Vietnam – gave guidance to negotiators on achieving an ambitious and balanced 21st-century agreement that will enhance trade and investment between them, promote innovation and competitiveness, economic growth and development, and support the creation and retention of jobs in their countries.

Buoyed by the ministerial engagement and their commitment to actively guide the negotiations, negotiators advanced their technical work this round on the texts covering market access, rules of origin, investment, financial services, intellectual property, competition, and environment. They also made progress on the packages providing access to each other's markets for goods, services, investment, financial services, temporary entry, and government procurement.

Their discussions both jointly and bilaterally were successful in identifying creative and pragmatic solutions to many issues and further narrowing the remaining work. Also this week, negotiators covering labour issues continued their work on the outstanding issues in the chapter.

Having identified pathways forward, negotiators will meet again intersessionally in the coming weeks to further their work. Several other negotiating groups that did not meet during this round because they required additional time for domestic consultation before convening also will meet, including those covering technical barriers to trade, e-commerce, and legal issues. The intersessional work is intended to further advance the negotiations in the lead up to APEC Leaders meeting in Bali, Indonesia, on the margins of which TPP Leaders are expected to meet as they have in past years. This meeting will be an important milestone as the 12 countries work intensively to conclude this landmark agreement this year.

On August 27, the TPP negotiations were temporarily adjourned so that negotiators could meet with 150 stakeholders on site from across the TPP region. Stakeholders made presentations to negotiators on a wide range of issues, and Chief Negotiators met informally with stakeholders to discuss in detail on specific issues of interest to them.

3. 8月23日（金）に行われた甘利大臣による記者会見の冒頭発言

本日の朝からバイ会談を行った。東京で会ったフローマン代表との立ち話を含め、今回閣僚が参加したすべての国とバイ会談を行うことができた。しめくくりの全体会合が開催されたが、これらの会合を通じて、各国が、野心的でバランスのとれた21世紀型の協定を年内にも作り上げるという目標を共有しており、そのために10月のAPEC首脳会議が大きな節目になると認識していることが確認できた。APEC首脳会議において、具体的成果を実現するためには、交渉参加国それぞれが相当な努力をすることが必要である。TPPによる新たなルール作りは、ある国の制度や法律をその他の国に押し付けるということではない。皆でともに知恵を出し合って、アジア太平洋地域に、世界の模範となる全く新しい経済秩序を構築することが大事という点を強調し、参加国の理解が得られた。

物品市場アクセス、サービス・投資、金融サービス、政府調達、知的財産、競争、環境など、いくつかのセンシティブで困難な問題が残されており、今回の閣僚会合においては、それらの分野について、取り得る着地点を含めて、相互に受け入れ可能なパッケージを作り上げる方法を検討した。交渉の年内妥結のために残された時間は多くない。全参加国が切迫感をもって早急なとりまとめに向けて最大限努力しようということで一致した。もちろん、日本もそのための努力を惜しまない旨を表明した。

日本はこれまで米国と親密な関係を築いてきた一方で、アジアの一員としてアジアの国々との信頼関係がある。日本の

こうした立ち位置を活かし、橋渡し役を務めたい。日本は遅れて参加したが、日本の参加によって TPP 交渉が各国にとってバランスのある成果を出せるのではないかという強い期待を感じた。

これからも来週にかけて、ブルネイにおいて首席交渉官以下での会合が続く。今回、閣僚の間で一致したこうした認識を踏まえ、早急に具体的成果を出すよう、首席交渉官、分野別交渉官に指示をした。私自身も先頭に立って調整を行い、各国からの日本に対する期待に応えていきたい。

(以上)

4. 8月30日（金）に行われた鶴岡首席交渉官による記者会見の冒頭発言

今回のラウンドは、閣僚会議からはじまり、非常に熱心に交渉を行った。第19回のTPPのラウンドは、日本が本格的かつ各国と対等に参加した初めてのラウンドだが、その印象を最初に申し上げる。

我が国は、前回のコタキナバルの会合の最後の段階で参加を認められ、コタキナバルにおいて、それまでに得ていた間接情報を直接情報に転換した。その後、ブルネイ交渉の準備を本格的に開始し、閣僚会議から始まった今回の交渉に本格的に参加した。甘利大臣の閣僚会議における立場表明での発言や意見表明は、これまで18回の会合に参加したほかの大臣と比べて何ら遜色がなかった。また、各国からも日本が新入生であるかのような扱いは全く受けなかった。私自身も、首席交渉官会合において、新入生扱いやほかの参加国との差別や違った待遇は経験しなかったし、幸い、日本側の準備が十分整っていたこともあり、本格的に議論に参加できたと思っている。

入った途端に若干生意気と言われるかもしれないが、困難な課題についても各国と相談しながら提案を提出し、日本として果たせる役割、例えば議論の仲介など積極的に果たしていこうという意欲で閣僚会議、首席交渉官会合、各作業部会において日本は交渉に臨んだ。各国からは非常に好意的に日本の参加を受け止められており、日本が初めて参加した作業部会も少なくなかったものの、そういった作業部会が首席交渉官達への報告を行う際には、冒頭に日本の参加を歓迎すると言っていた。それは外交辞令的なものにとどまっていない

のではないかと自負できるくらい、各交渉官が勉強し、できるだけ内容のある参加を心掛けたものと理解している。

今回は、閣僚会議において、バリのAPEC首脳会議の際に恐らく開催されることとなるTPP首脳会合を目標として作業を行うことが指示された。具体的には、バリの首脳会合において大筋合意を実現するために必要な作業を今後加速化させ、十分成果をあげるようにという指示があったわけだが、多岐にわたるTPPの交渉の各作業部会で同時並行的に議論がされ、いくつかの分野において進展があり、困難な問題について議論が深まり、さらなる進展のための方向性を見出すための議論がなされた。進展がまったくなかった分野はないと理解しているが、他方で解決して仕上がった分野もない。具体的な進展に向けた、様々な進展がみられたことを公平な評価として申し上げることができる。

特に困難といわれている、知的財産、競争や環境、労働のような、いわゆる通商協定では通常扱われない新分野について、首席交渉官の間でも困難な課題であるとの認識が共有されている。それ以外の分野でも、大きな方向性がすでに出ていて、技術的な議論が淡々と交渉され協議が相当進展したものもある。議長国のブルネイから発表されたプレスリリースでもそれらの分野が列挙されているが、進展しているか、していないかは、相当主観的な評価である。全部まとめれば、だれもが進展に疑問なしとなるが、現段階では、どの分野が進展したのかは主観的な評価とならざるを得ないため、分野羅列型なプレスリリースとなった。

日本の立場から申し上げれば、交渉にそれなりの進展があったことを評価できる。具体的には、今回の交渉の位置づけ

は、バリのＴＰＰ首脳会議に向けた準備の皮切りである。皮切りの作業は、バリに向けて閣僚からの指示を受けたという活力を、これまで進展ができなかった分野を加速化させて進めるために、まずは問題点、課題の明確化とその認識の共有をすることが基本になる。克服されなければいけない課題と問題が明確化され、その認識が共有されことは、今後の交渉を進める上で必要な素材が相当程度整えられた、または整えられつつあると申し上げることができる。その上で、その素材をもとにどのような課題解決のための具体的な提案や条文にまとめるかということが、今後の課題だが、その作業を行う材料が今回のラウンドで相当進展した。様々な作業部会が中間会合をバリまでの間に開催することを予定しているが、バリで開催されるであろうＴＰＰ首脳会合において成果を出すことが可能となるよう、９月の１か月間を最大限活用してそれぞれの課題について前進させるための相当程度の作業が行われる。交渉官たちは、朝早くから会合を重ね、また、夜遅くまで会議を開催しており、これは交渉官が交渉を進展させよう、課題を明確化しようという意欲を表していると考えている。日本の代表として、今回の交渉の結果は、バリにおける成果を実現するためにも有意義な準備会議だったということができる。

(以上)

5. ステークホルダー（利害関係者）会合概要

第 19 回 T P P 交渉会合（ブルネイ） ステークホルダー会合（8 月 27 日）について

平成 25 年 8 月 27 日

内閣官房 T P P 政府対策本部

- 本日、ブルネイ政府主催のステークホルダー会合が開催された。午前 9 時から 11 時にかけて、知的財産、投資、物品市場アクセス、その他のテーマに分かれてステークホルダーからプレゼンテーションが行われた。
- 日本からは計 5 団体がプレゼンテーションを行った。物品市場アクセスの分野で「精糖工業会」、「日本の畜産ネットワーク」が、その他のテーマで「TPP って何?」、「日本消費者連盟」、「TPP を考える国民会議」がプレゼンテーションを行った。
- 午前 11 時から 12 時にかけては、首席交渉官との対話の場が設けられ、各国のステークホルダーと各交渉参加国の首席交渉官が対話を行った。